

8511 有名というものは、世間の人・・・

有名というものは、世間の人欲して、なかなか得られないものである。だから有名が何だと息まいたり、虚名にすぎないと馬鹿にしたりするが、馬鹿にしきれないものである。

世間には、有名な人と君僕の交りがあると自慢する人がある。これは有名な人と友なら、自分も有名だろうと思ってくれるのをあてにしてのことである。果たしてそう思ってくれる人があるから、わが身を飾って各界名士を友だち扱いにする人が絶えないのである。

山本 夏彦：笑わぬでもなし

[許容訳例]

Fame is something which people want but find difficult to achieve. For that reason, some say rather proudly that they don't care for fame, or dismiss fame as vanity; but still they cannot wholly despise it.

Some boast of having close relationships with famous persons. They do so because they expect, if they are friends with famous men, to be regarded as famous themselves. And they are in fact often regarded as such. That is why people will always adorn their egos with famous people in various fields who they imagine are their friends.

[翻訳例]

Fame is something that most people want yet find hard to achieve. Some people, accordingly, affect to scorn it, or dismiss it as mere vanity; yet something about it refuses to be dismissed.

There are those who boast of intimacy with the celebrated, hoping that acquaintance with fame will lead to assumptions of fame about themselves. And there are others in fact who fall in with this, which is why there will always be people who put an air and behave as though famous men in various walks of life were their friends.

■有名というものは、世間の人欲して、なかなか得られないものである。(8511)

★「有名というものは」ですが、日本語は「～というものは」という言い方で一般抽象概念を示すことが多く、「有名というもの」は Fame is…でいいでしょう。

★「世間の人」は「人は誰でも」ではありません。普通、「多くの人」「たいいていの人」の意味で用います。ですから most people です。

★「欲して」は want でしょう。

◆「なかなか得られない」に can hardly は使えません

「なかなか得られない」は「なかなか得ることができない」ということですが、can hardly obtain とすることは出来ません。can hardly…には二つの意味があります。一つは「(いくらなんでも)…するわけにはいかない」という意味で、一つのイディオムのように使います。

たとえば、We can hardly ask him to come again tomorrow . (明日また来てくれなんて頼むわけにいかない)のような場合です。もう一つは almost cannot と同じで「もう少しのところで出来ない」・「(・・・できることはできるのだけれども)やっとのことである」という肯定的な意味です。たとえば、It's so hot that I can hardly hold it. という場合、実際には手に持っているわけで、(とても熱くてもう少しで落としてしまいそうだ)とか、あるいは、The ceiling is so high that I can hardly reach it with my hand.(天井はとても高くてかろうじてなんとか手が届くほどだ)というように使うのです。なお、この「かろうじて・・・することが出来る」という意味の場合、動作に grade がある動詞が何か言葉を補って使われます。したがって、たとえば、He can hardly speak English.では不完全な英語で、He can hardly speak any English.とか、He can hardly speak English at all.のように何らかの言葉を補うのです。ここの「名声を得る・得ない」は grade のあることではありませんから、使うことができません。したがって、ここでは want but [yet] find hard [difficult] to achieve[obtain]とします。gain とか get も間違いではありませんが、ちょっと軽くて使いたくありません。

●「[して]」の「逆接」用法（欲して、なかなか得られない）

日本語の「・・・[して]」が「・・・しても」とか「・・・が」と言い換えることが出来る文脈では「逆接」です。ここの「欲して、なかなか得られない」の場合の「欲して」は「欲しても」とか「欲しいが」ということなので、A but [yet] B です。

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」（欲して、なかなか得られないもの）

「欲して、なかなか得られないもの」は「連体修飾節（欲して、なかなか得られない）＋不定代名詞的体言（もの）」ですから、英語では「代名詞(something)＋関係詞節(which [that] ...）」です。ここでは something which [that] most people want yet which is difficult to achieve ですが、Fame is much sought after yet difficult to obtain とか Fame is much sought after yet elusive とすることも出来ます。ついですが、elude は avoid; escape の意味で、その派生語 elusive は「なかなか手に入らない；とらえどころのない」ということです。

●関係詞節を使わない変換

日本語の「○は□が＋他動詞」の中には「○を□は＋他動詞」で言い換えることが出来る文があります。ここの「有名（というもの）は、たいていの人が欲しがすが得がたいものである。」がそうで、これは「有名（というもの）をたいていの人には欲しがすがそれを得るのはむずかしい」ということですから、関係代名詞を使わなくても、Most people want fame yet find it hard to achieve.と言い換えることが出来ます。

■だから有名が何だと息まいたり、虚名にすぎないと馬鹿にしたりするが、馬鹿にしきれないものである。(8511)

★「だから」は therefore; thus; for that reason; accordingly などを使うことが出来ます。

★「有名が何だと息まいたり」は、日本語独特の直接話法混じりの文です。このまま英語に訳すことは出来ません。この日本語の意味するところは、「有名」が欲しいという気持ちが裏にあるからこそ、それに反発して「有名が何だ」などと啖呵を切りたくなるわけです。した

がって、英語では「内実は有名が欲しいのに無視する振りをして」くらいに変えないと伝わ
りません。say rather proudly that they don't care for fame とか affect to scorn it など。

★「虚名にすぎないと馬鹿にしたりする」の「虚名にすぎない」も直接話法の文です。それ
から「馬鹿にする」も、そのまま訳すことは出来ません。ここは「有名なんて虚名にすぎな
いと軽べつする」と変えて訳すことにします。some (people) make light of it as a vanity と
か、dismiss fame as vanity, あるいは dismiss it as mere vanity などでしょう。なお、vanity
は、普通は無冠詞です。ただし、a kind of の意味で a を付けても間違いではありません。
それから think light of ~は、あくまでも自分の頭の中で「たいしたことないと思う」ことで、
積極的に馬鹿にする、軽蔑する、という意味は入っていないので、ここでは使えません。

● [が] (逆接)

この「・・・[が]、馬鹿にしきれないものである」の [が] は「それでもすっかり軽べ
つし切れないものである」と続くので but では弱すぎます。but というのは、たとえば、I
went to see him, but he was not at home.のように、前後の文章の関係が「・・・という期待
に反して・・・」という感じで、一つのバランスがとれているわけですが、この日本語は
ちょっと違うと思います。したがって、[:] but still…か、あるいは yet を用いるのがいいと
思います。but に比べて yet はかなり強い感じになります。あるいは、ピリオッドにして
However とか Nevertheless で始めてもいいでしょう。

★「馬鹿にしきれないものである」は、簡単に「馬鹿にしきれない」として they cannot wholly
despise it としてもいいでしょう。cannot wholly despise という表現は、たとえば、He has
all kinds of faults. But one cannot wholly despise him. (部分否定) というようによく使いま
す。あるいは日本文の「・・・しきれない(もの)」のニュアンスを込めるために something
about it (それには何か・・・なところがある) を使って、yet something about it refuses to
be dismissed とすることも出来ます。この refuse は、たとえば、This door refuses to open.
(なかなか [どうしても] 開かない) のように使います。

■世間には、有名な人と君僕の交りがあると自慢する人がある。(8511)

★「世間には」は、「世の中には」(in the world) ではなく、ここでは「世間の人は」とほぼ
同じ感覚で用いられており、Some (people)…とか There are those [some people] who…を
使えばその中に含まれてしまいます。

★「有名な人」は famous persons でもいいのですが、他のところで fame(<famous)を使う
ので、繰り返しを避けたければ the celebrated でもいいです。

★「～と君僕の交わりがある」の「君僕の交わり」を you-and-me relationship などと訳し
ても通じません。「有名な人と親交がある」と考えます。「有名人と親交がある」は have close
relationships with famous persons; be on terms of intimacy with the celebrated; be
intimate[good; close] terms with the celebrated[famous persons]などです。

★「・・・と自慢する」は、ここでは広言することが前提になります。したがって be boast
of です。なお、boast of の代わりに pride themselves (up) on; be proud of を使うことはで

きません。これらは‘自分の心の中での感じ方’を表す表現で、世間とか他の人に対して自慢するという意味は入っていません。

■これは有名な人と友なら、自分も有名だろうと思ってくれるのをあてにしてのことである。(8511)

★「これは・・・のことである」は「これは[こうするのは]・・・だからである」ということですから、平易な英語で変換するなら This is [They do so] because…でしょう。

★「有名な人と友なら」は if they are friends with famous men とか, if they are well acquainted with famous people でしょう。

★「自分も有名だろうと思ってくれる」は be regarded as famous でもいいですが、「自分も」「も」にこだわるなら, too とか also で間に合うこともあります。英語らしい英語の表現としては oneself が一番いいと思います。たとえば, Do people do that kind of thing? と聞かれて Yes, I do it myself. (ええ, 私もやります) と答えるように使います。ここでは think that they are famous themselves と使えます。

★「あてにして」は「期待して」ということで, expect とか hope を使うことができます。

●英語らしい英文にする

「これは有名な人と友なら、自分も有名だろうと思ってくれるのをあてにしてのことである。」は、平易な英語で, This is because they hope [are hoping] that if they are well acquainted with famous people it will make others think [lead others to think] that they are famous themselves と変換しても構いませんが、ここは「～は・・・をあてに[して]のことである」ですから、「主動詞(There are those who boast of intimacy with the celebrated,) + 句(hoping that…)」の形で処理すると日本語の情報順にすることが出来ます。(なお, There are those who…の形にしたのは上で some people…を使ったので同じ表現を避けるためです)それで、「有名な人と友だちであるから(<必然的に・当然)自分も有名と思ってくれると期待しているからである」を hoping that…とします。ところで、イギリスには‘エッセイ文学’というべきジャンルがあったような気がします。フランシス・ベーコンあたりから始まって、20世紀のA. G. ガードナー, E. V. ルーカス, ロバート・リンド, A. A. ミルンなど。たぶん、その伝統は Laurie Lee(*I Can't Stay Long*)で終わったと思うのですが、何となく一定のスタイルがあったように感じます。そのスタイルに合わせると hoping that acquaintance with fame will lead to assumptions of fame about themselves となり、いかにもエッセイらしい英語になります。この場合の fame は famous people の意味で, acquaintance with fame で「有名な人と知り合いであること→有名な人と友達なら」ということになります。続いて lead to assumptions of ~は「～と思い込むようにする[～と思い込ませる]→～と思ってくれる」ということです。戦前の旧制高等学校の入試や昭和30年代ごろまでの大学入試にはこのレベルの英文が使われていました。ある種の品格とユーモアが感じられないでしょうか。考えて見ると、私は英文学を勉強したくて英文科に入ったのではなく、中学生のころ夏目漱石の小説で知った大人の世界に触れたかったからであるように思います。

■果たしてそう思ってくれる人があるから、わが身を飾って各界名士を友だち扱いにする人が絶えないのである。(8511)

★「果たして」は「案の定」という意味ですから And they are in fact…とか、ちょっと会話的な表現になりますが Sure enough もいいと思います。これはいい場合にも悪い場合にも使えて「思った通り・案の定」という意味になります。なお、ここで actually も使えないことはないのですが、文頭に出すと「まさかと思うかもしれないが、実は」のように、何か事実を打ち明ける・告白する」という場合になることが多いので、勧められません。

★「そう思ってくれる人があるから」は「そう思ってくれる人がいる、だから・・・」と、接続詞を次の節の先頭に出すように工夫します。they are in fact often regarded as such; there are others in fact who fall in with this ぐらい。fall in with～もエッセイ的でちょっと難しいと思いますが、「～に調子[ペース]を合わせる」という意味で、to fall in with somebody's hopes [wishes] (人と願いが一致する) のように使います。

● [から] (因果)

「・・・から」→「だから・・・だ」として That's why…と処理します。

★「わが身を飾って各界名士を友だち扱いにする」は「各界名士を友だち扱いにしてわが身を飾る」が論理的です。しかし、このまま訳しても意味をなしません。「まるで各界の名士が友人であるかのように振舞う」と変えなければならないと思います。

★「わが身を飾る」ですが辞書には「身を飾る」に adorn oneself with が出ています。しかし、この表現は、実際に何か装飾品を身につけるとかいった具体的な意味で使うのが普通です。ここで使うとすれば adorn their egos なら flatter their own pride; boast their pride という意味、つまり ego というのは「自己中心的なプライド意識」ということになって許されるでしょう。

★「各界(名士)」は(famous people) in various fields とか、あるいは、よく使われる(famous men) in various walks of life でしょう。

★「各界名士を友だち扱いにする」は「まるで各界名士が自分の友人であるかのように」ということで as though famous men in various walks of life were their friends ですが、they imagine famous people are their friends でも通じると思います。

★「振舞う」は behave ですが、日本語の「各界名士を友だち扱いにする」には「気取って見せびらかす」(put on airs and behave) が目に浮かびます。高校一年のとき、長年アメリカで暮らし通訳をしていた人から英作文を習いましたが、彼の口癖は「絵になるように英語を書け」でした。

★「(だから)・・・する人が絶えない」は「・・・するのが人の常(だから仕方ない)」というニュアンスをこめて(That's why) there will always be people who…と「傾向の will」を使うか、あるいは、ちょっと古い英語になるかもしれませんが (That's why) there is no end to people who…とするか、もう少し会話的な英語にして(That's why) one is always coming across [meeting]…とするかです。

●「連帯修飾節＋体言」二つと which is why…の使い方（果たしてそう思ってくれる人があるから、わが身を飾って各界名士を友だち扱いにする人が絶えないのである）

「果たしてそう思ってくれる人があるから、わが身を飾って各界名士を友だち扱いにする人が絶えないのである」には二つの連体修飾節「果たしてそう思ってくれる人」と「わが身を飾って各界名士を友だち扱いにする人」が含まれています。当然、「名詞＋関係詞節」に変換してつなぐことになりますが、ここの趣旨は、まずは前の「果たして・・・人がある」ということを伝えて、次に「その結果・・・である」と伝えたいわけです。したがって、because を使ってつなぐ前後の文の比重が変わっておかしくなります。このような場合には「コンマ＋which is why…」（だから・・・である [・・・という結果になる]）を使うといいのです。したがって、ここは there are others who …, which is why there will always be people who… とするのが適切な形となります。